

2011 年度 第 1 回調査

「滋賀の天然水と水の神さま」結果報告

近代的技術の発展に伴い、水利用の暮らし環境も蛇口から出る上水道を中心としたものになってきています。このような上水道は、私たちの生活に便利さや恵みをもたらしてくれていますが、一方、いざという時に、特に今回の東日本大震災という緊急時には、水道が使えなくなり、飲料水を含めすべての用水に困ってしまいました。生活用水を確保するため、地域における湧水や天然の水源を探し求めたりするなど、天然水を生活用水として利用できたらという願いの声も少なくありませんでした。このように、水資源の保全は琵琶湖や世界各地においても共通な課題になっている今日、身近な水利用と生活文化についてもう一度目を向ける必要が生じてきています。

琵琶湖周辺では、古くから水をめぐる利用によって育まれてきた暮らしの文化が継承されてきており、現在も滋賀県らしい独自の水利用の様式が残されています。琵琶湖博物館でも、かつての琵琶湖周辺での水利用や水文化についての資料を多く蓄積してきました。しかし、環境の改変や水をめぐる利用の変化に伴い、人々の生活様式も変容してきた中、「現在」における「滋賀の水利用」に関する資料や調査報告書が多くありません。

そこで、琵琶湖博物館フィールドレポーターは、「滋賀の天然水と水の神さま」をテーマとした 2011 年度第 1 回のアンケート型調査に挑むことになり、琵琶湖周辺における天然水の利用や水をめぐる信仰についての調査を実施しました。

今回実施した「滋賀の天然水と水の神さま」調査の結果は、たいへん興味深い調査報告としてまとめられています。この調査を通じて、多くの方々からの有意義な情報の提供や協力をいただき、また調査票の集計や調査まとめなどに尽力されたフィールドレポータースタッフ方々の日々の熱意は、今後の滋賀の水と生活文化との「交流」にもつながるに違いありません。

皆様、ぜひご覧になって下さい。

滋賀県立琵琶湖博物館・楊 平

「滋賀の天然水と水の神さま」調査結果報告

FRS 村上靖昭

古代より滋賀県に住む人々は、日本一の大きさを誇る琵琶湖とそこに流入する多数の大小河川とその伏流水、各地に湧き出る水など恵まれた水環境の中で暮らしてきたと言っても過言ではないでしょう。

しかしその歴史の中で、豊かな水から恩恵を受けるだけでなく、時には水に悩まされることも多かったことでしょう。そんな中、人々はままならぬ水をどのように守り、祈りながら今日に受け継いできたのでしょうか。その一端を知るべく、今回の調査では各地に点在する天然水の使われている現状と、それにまつわる水の神さまや「まつり」について調査しました。

調査に回答を寄せていただいた方は32人で、湧水の出ている箇所には76件、井戸水や沢、小川の水には31件ありました。しかし、その中には複数の調査者が同一箇所を調べてくださったものが3件ありましたが、コメントや名称の表記方法にも若干の違いがあり、別件として数えました。

この報告書では、寄せられた回答をできるものは数値化して頻度を求め、コメント部分はそれぞれに関連する部分を抜粋して記載しました。またそれぞれの位置は地図上に示しました。回答いただいたすべての地点は、図1及び図8に示したとおりです。それぞれのプロットは8桁のメッシュコードで示しているため、同一プロットであっても複数の地点が重なっているものがあることはご了承ください。

「湧水」および「井戸水や沢、小川の水」がどのような使われ方をしているかについては、複数の回答で答えていただきました。

図1(3p)および図8(8p)は、それぞれの使われ方を湧水76件、井戸水等31件に対して見たものです。また、表1(3p)、表2(8p)はそれぞれの使われ方を主として見たとき、併せてどのような使われ方をしているかを表したものです。それによって、それぞれの水の特徴が見えてきました。

また、今回調査するにあたり、水の姿・環境によって使われ方などに違いがあるのではないかと理由で、「湧水」と「井戸水や沢、小川の水」の区別をしました。その定義を、「湧水」を使うとは地表に湧き出している水をその地点で直接使うこと、「井戸水や沢、…」を使うとは、人工的に汲み上げたり、線的・面的に広がっている水を使うこととしていました。しかし結果的には、「湧水」の方が報告数において多いだけで、使われ方においては、以下に示したとおり、両者に大きな違いはありませんでした。

・ 湧水の使われ方

飲料水として使われている水が 30 件と最も多いですが、他の用途で神事が 9 件と多いのは、その清涼さゆえに神前での手水など、神仏と深い結びつきがあるように思われます。

単独利用のみの割合で見れば生活用水が最も高いですが、その生活用水であっても単独利用ではない地点では、様々な使われ方をしているのも特徴的でした。

農業用水の全件数が少ないのは湧出量に限りがあるからでしょうか。

その他の使われ方では、様々なコメントがあり、使われ方も多岐に亘っており、湧出量の減少で、以前とは違った使われ方をしているというものがありました。

表 1 湧水の使われ方細目

用途 \ 他用途	飲料水	生活用水	農業用水	神事(信仰)	その他
用途 ()内は単独利用					
飲料水: 30 (12)	*	4	4	9	4
生活用水: 16 (11)	4	*	3	2	2
農業用水: 13 (3)	4	3	*	4	3
神事(信仰): 19 (4)	9	2	4	*	0
その他: 27 (21)	4	2	3	0	*

飲料水として使う

湧水で最も多く使われているとの回答があったのは飲料水です。飲料水として用いるのであれば、その水は清涼であることが条件ですが、それにふさわしく、山間部や山裾などに多く展開していることが右の図 3 にも見られます。街道筋では欠かすことのできない命の水として、昔の旅人達の喉を潤してきたことでしょう。

また、その多くには名前がついており、おいしい水だと推察されます。いわゆる「名(銘)水」と呼ばれるものでしょう。「名水百選」に選定されているものの回答もありました。

現在も多くの人々が汲みに訪れている様子がコメントからうかがえます。

コメントや補足資料にたくさんの説明や思いを寄せられていますので、以下の項目にも同様に、それぞれ関連する部分をできるだけ正確に抜粋し記載しました。

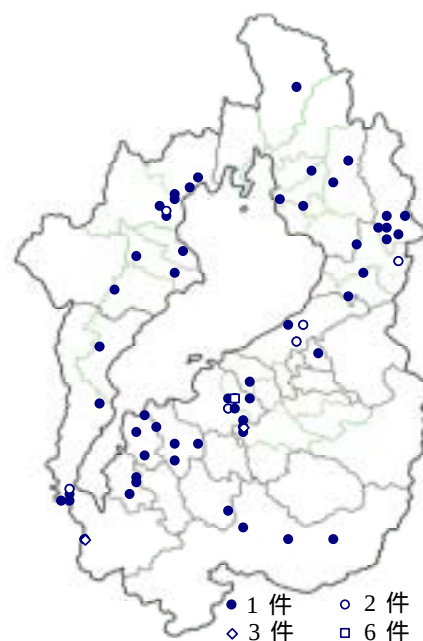


図 1 湧水を使っている地点

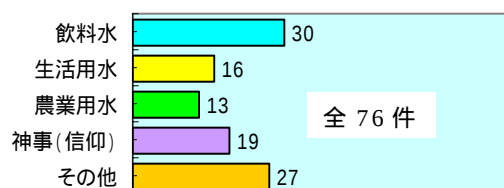


図 2 湧水の使われ方(複数回答)

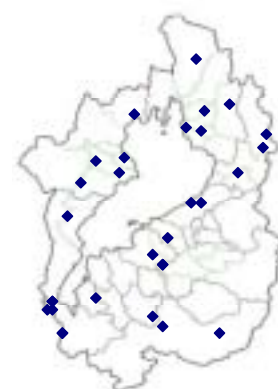


図 3 飲料水として使う

名称 / 所在地	調査者のコメントや説明
天命水 / 大津市木戸	登山者の給水
金明水 / 米原市伊吹	伊吹山ドライブウェイ 1000m 付近に出ている水で、伊吹登山最後の湧水。
長等山不動明王の水 / 大津市	おいしい水とのことで、汲みに来る人が多いとのこと。
甘呂の水 / 彦根市	観音正寺御用達の天然湧水。100 円で 3 分間流れる。
胡桃谷の明水 / 長浜市余呉	以前は土手から流れる水を集水して用いていたが、数年前からコンクリートにパイプを取り付けて用いている。深層から湧出しているものと思われる、1 年中温度、水量は変わらない。
岩間の水 / 大津市	岩間寺へ向かう車道に山肌から水が出ていて、近くの人ほとりに行かれます。
月心寺 / 大津市	昔、東海道を旅した人ののどを潤したそうです。
堂来清水 / 長浜市浅井高山	名水百選
天皇の水 / 長浜市高月	名水百選
御神水「知恵の泉」 / 高島市マキノ	おいしい水なので、近くの造り酒屋へ引水して地酒造りに利用されている。
三尺の泉 / 高島市安曇川	全国版の名水の図書に掲載され、訪問者に利用されている。また藤樹祭（毎年 9 月 25 日）の献茶の水としても利用されている。
「秋葉の水」「瓜破（割）の水」 / 高島市安曇川	昭和 35 年頃までは洞窟の様な所から冷水が湧いて飲料や果物を冷やしたり生活用水に利用されていた。
若宮湧水 / 近江八幡市	飲み水（神水？）として（ペットボトル）にもらいに来る人がいるが、あまり利用されてない様子だった。水温は思っていたほど冷たくなかった。（気温 34 の日）
海老江湧水（仮称） / 長浜市湖北	湧き出る水は多く、誰でも気軽に飲めるようになっている。

生活用水として使う

飲み水は上水道に取って代わられたとしても、豊富に湧き出す水があれば、それを捨て置くことはないでしょう。洗濯に野菜洗いはもちろんのこと、夏場に西瓜や瓜などの果物を冷やせば最高の贅沢といえるでしょう。

東海道本線の旧逢坂山トンネルから大量に湧き出す水は大津市の上水道に活用されているとのこと。

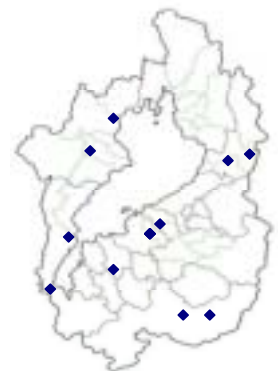


図 4 生活用水として使う

名称 / 所在地	コメント
宝源さん（法印さん） / 野洲市	昔は飲料水（水道が普及完備してからは飲料には使用しなくなった）
/ 高島市今津、個人宅地内	洗車、打ち水
逢坂山隧道湧水 / 大津市	隧道内の湧水は大津市の水道水として利用され、近くに加圧ポンプ場がある。
「秋葉の水」「瓜破（割）の水」 / 高島市安曇川	昭和 35 年頃までは洞窟の様な所から冷水が湧いて飲料や果物を冷やしたり生活用水に利用されていた。

/米原市	洗濯したりすすいだり、畑からとってきた野菜などを洗うのに使われていました。(この周辺の人みんなが共同利用)
音戸川湧水/近江八幡市安土	鯉がいるが、野菜などを洗うのに使われている。
喜多川湧水/近江八幡市安土	野菜洗い、洗濯すぎ。最近、足冷水用(夏)に座るところが作っている。(足涌)
音堂川湧水/近江八幡市安土	ズイキのあく抜き。

農業用水として使う

湧水の利用として農業用水は多くは使われていませんが、農耕に水は欠かせないものであり、現在でも東近江市に湧き出る水を近江八幡市が水利権を持つように、過去においては水利権争いもたびたびあったことでしょう。大津市真野地区に見られるように宅地開発や河川改修などによって湧水量が減ってきているのが危惧されます。

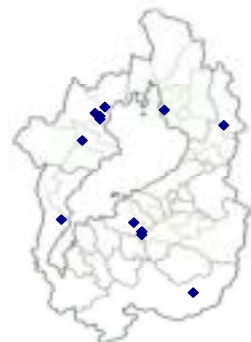


図5 農業用水として使う

名称/所在地	調査者のコメントや説明
明神池/東近江市	近江八幡市が水利権を持つ。
/大津市真野	真野川上流域の宅地開発(山林)にともないボーリングにより地下水をくみ上げ用水路に放流している。
/高島市今津、長谷院近く	厳密には農業用に使用されていませんが、種苗に使用するモミを袋に入れて10日余り湧水池に浸し、発芽を促進させます。
若宮湧水/近江八幡市	近隣の村落にとっても大切な農業用水。
御澤神社「お沢さん」/東近江市	3つの池があり、この水は不増不減にして近郷近在の田地を潤している。

神事(信仰)として使う

神事(信仰)に使われる水といえば、神前や仏前にお供えする水、手水(御手洗)所で清めをする水、願掛けのために口に含んだり体の一部を浸したりする水などがあるでしょう。

これが汚れた水や、上水道の蛇口をひねって流れ出す水であれば、神聖な気持ちや霊験のあらたかさなどがどこかへ行ってしまうような気がします。是非いつまでも湧き出してもらいたいものです。



図6 神事(信仰)として使う

名称/所在地	調査者のコメントや説明
天命水/大津市木戸	比良八講の修三会(お水取り)の折、比良三蔵に供える。湖水清浄祈願。
明神池/東近江市	下羽田町の剣神社の宮司をした際、池に入って体を清めて町内の人々の無事を祈る。
/高島市今津、長谷院近く	神事に使用することはないようですが、お盆の仏壇に湧水をお供えします。
波久奴神社/長浜市浅井高畑	神社の井戸水で、湯の花祭りが行われる。
十王の水/彦根市	昔より母乳の地蔵尊として産婦の乳の出ないときはお願いすると乳を授かり、不用になればお預けに行けば乳が止まると伝えられている。

御澤神社「お沢さん」/東近江市	神鏡水は病平癒・諸願成就の御利益は霊験極めてあらたかという。
清龍の滝/米原市	蛇を祀ったり、不動明王を祀ったりした祠がある。
高光竜神の湧水/甲良町	小川原神社の境内
金亀水/甲賀市水口	飯道山飯道神社境内
寄倍の池/野洲市	大笹原神社の境内
/高島市今津、神明寺跡	お盆には、この水を仏壇に供える風習が残っているらしい。

その他の使われ方

下のコメントにあるように、様々な用途に使われていることがうかがえます。湧水の大きな特長は、まず清涼であること、そして、年間を通じてほぼ水温が一定であることといえるでしょう。それを活かした町・観光のシンボルや公園の整備、そして道路等の融雪、防火用水などに使われているようです。更に、窪地に溜まれば湿原となったり貴重な生物の繁殖の場となっているようです。

その他、この項の回答では、「以前は使われていたが現在は殆ど使われてない」とか、「用途が不明である」などがありました。

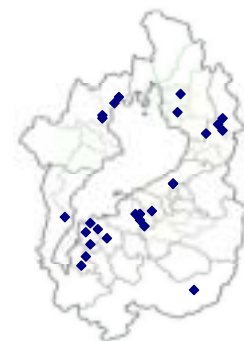


図 7 その他の使用

名称/所在地	調査者のコメントや説明
野路の玉川/草津市	観光、歌に詠まれた日本六玉川の一つ。
/東近江市、後藤館跡	近江守護佐々木六角氏の重臣後藤氏の館跡、滋賀県指定史跡
山室湿原、みつくり川/米原市	湿原の水
/草津市	埋立前までは広い溜池でした。
/高島市マキノ	昭和 40 年頃道路の融雪装置に使用する為掘削されたが水量が少なく使用されず。現在は水の中の成分がモヤモヤの状態で水中に漂っている。
/大津市真野	真野川上流域の宅地開発(山林)にともないボーリングにより地下水をくみ上げ用水路に放流している。
/長浜市湖北	かつては農業用水。
南井水/甲賀市土山	公園。湧き水が 6 本、水量豊かに流れ落ちている。
彦根市/新神戸電機構内	冷却用水
/彦根市 JR 川瀬駅北東側	防災用水
大夫の井戸/近江八幡市安土、観音寺山城跡	山城跡の井戸。曲水の宴でもなされたよう。
御神水「知恵の泉」「知恵の水」/高島市マキノ	天神社だけに、この水を飲むと賢くなるともいわれ、また、おいしい水なので、近くの造り酒屋へ引水して地酒造りに利用されている。
/高島市今津	県内の平地に残る数少ないザゼンソウ群落の生育に寄与している。
浅小井 湧水の里/近江八幡市	昔は(飲料水・生活用水として)使っていたが、今は鯉と鴨のいる湧水池。
涌上の郷/近江八幡市	野田町のシンボルとして、はなばなし「涌上の郷」として整備されていて、以前は水が出ていたように思うが、今は枯れている。
/近江八幡市、安土駅南	地下水脈よりポンプアップして、子どもの水遊び用に流している。

梅の川/近江八幡市安土	今は使われていないが、昔をしのび、「水琴窟」のような音が出ている。昔は、御茶の湯には常にこの湧水を使用したといわれる。
間田湧水群/米原市伊吹	今は生活用水としての活用は殆ど無い様子。下流で農業用に使われているようだ。
コンコン清水/米原市伊吹	石組み・階段があり、洗い物をしていたと思われる。生活用水として使われてきたようだが今は判らない。
奥泉口銘水/米原市伊吹	不明。古代には生活・農業用水として使われていたと思うが、今は殆ど使われていない様子。
丈の口 出湧/守山市	地域の生活用水、農業用水として活用されてきたが、今は湧水なく、使われていない。
日の口桶(小浜桶)/守山市	不明。この桶の活用されていた頃は琵琶湖岸の田んぼのはずで、農業用水であったと思う。
中の前出湯/守山市	集落の憩いの場として整備されている。
金ヶ橋池守山市	公園の用水として使っている。



岩間寺参道湧水 桜島昭紘氏提供



長等山不動明王 多胡好武氏提供



中の前出湯 津田國史氏提供

井戸水や沢、小川の水の使われ方

井戸水や沢、小川の水で最も多く使われているのは生活用水でした。湧水と比べ、小川の水を引き込んだり、井戸を掘れば身近に水を得られるというのがその理由でしょう。

しかしその水も、神事にあまり使われないのは人工的なものとしてふさわしくないとの判断からでしょうか。

農業用水として使われる水は、清涼さに欠ける面からか、飲料水や神事にはあまり使われてないようです。

逆に神事に使われている水を見ると、その他の利用には農業用として使われているだけでした。

その他の使われ方は湧水の場合とほぼ同様です。

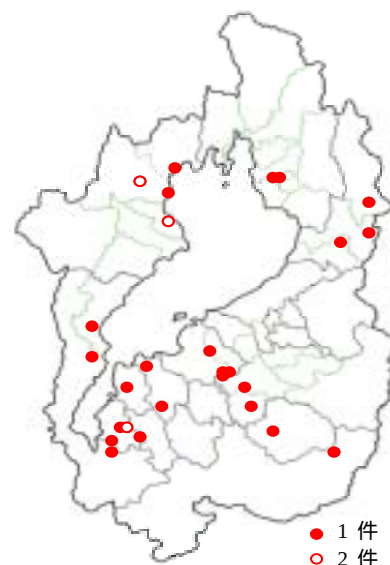


図9 井戸水や沢、小川の水を使っている地点

表2 井戸水や沢、小川の水の使われ方細目

他用途 用途 (単独使用)	飲料 水	生活用 水	農業 用水	神事(信 仰)	その 他
飲 料 水: 11 (3)	*	6	1	0	2
生 活 用 水: 18 (6)	6	*	4	0	3
農 業 用 水: 8 (2)	1	4	*	3	0
神 事 (信 仰): 5(2)	0	0	3	*	0
そ の 他: 6 (1)	2	3	0	0	*

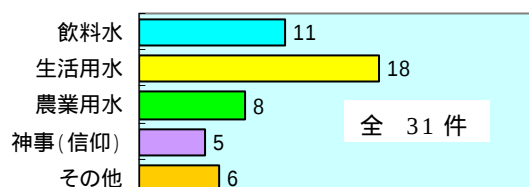


図9 井戸水や沢、小川の水の使われ方(複数回答)

飲料水として使う

湧水と同様、上水道が整備されるまでは欠かせないものでありました。湧水との違いは、人の手によって地下水脈から水を得たり、笕や水路などで水を手元に引き寄せていることにあります。湧水よりやや利用が少ないのは、水を得る手段に手間がかかるとか、環境によっては清涼さが失われるからでしょうか。コメントに見られるように、より利便性の高い上水道を利用する傾向にあるのでしょうか。

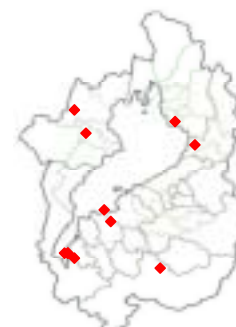


図10 飲料水として使う

名称/所在地

調査者のコメントや説明

集落の家々/東近江市	上水道が施設されるまでは各戸の家屋内に井戸があり、ガチャポンプを使用。平成に入って家屋新築の際井戸を埋めたが、上水道があっても鉄管を打ち込み使用している。
/草津市、北川・中村家等	花の水やり、ものを冷やすだけ。一部で今も使われている。真水の水脈と鉄気のある水脈がある。
/草津市、天井川沿い	お豆腐やさんが多かった。
小汐井神社/草津市	近所の人がいただいている。
/草津市	飲料水として使用されているかは不明。
/米原市、百坊林道	大阪で喫茶店をやっている人が毎月1~2回汲みに来ている。伊吹山は石灰岩ですが、この場所だけは違う水脈で飲めるそう。

/甲賀市土山	集落近くの自動車道東側。山の落ち水を水槽に溜めている。
かわと/高島市今津	上水道ができるまでは飲料として利用。現在も家の中へ引き込んで使ったり、野菜の洗い場、農家の種籾の浸し場として利用している。
/近江八幡市、各家の井戸水	愛知川の伏流水で、年間 16 水深 15～20 cm。各家には、伏流水の水脈から井戸を掘り、飲料水、風呂、洗濯に利用しているとのこと。市の水道も引いている。

生活用水として使う

高島市の針江の生水の郷が有名ですが、安曇川の伏流水を水路に流し、各戸に引き込んだ「川端(かばた)」は人々の暮らしを支え、水と人々の生活が密着した美しい風景を醸し出しています。まさに日本の原風景とも言えるでしょう。このような風景があまり見られなくなったのは残念ですが、まだまだ洗い物などに活用されている様子がコメントされていました。

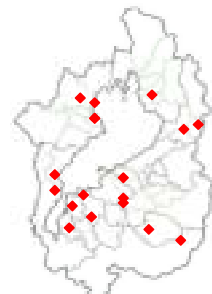


図 11 生活用水として使う

名称/所在地	調査者のコメントや説明
東近江市/御沢神社の近くの家々	以前は個人の家に湧水池を持っていたが、現在はほとんど存在していない。しかし、ホームポンプを設置して今でも飲料水としている。池に鯉を飼っていた。
東近江市/集落の家々	上水道が施設されるまでは各戸の家屋内に井戸があり、ガチャポンプを使用。平成に入って家屋新築の際井戸を埋めたが、上水道があっても鉄管を打ち込み使用している。
草津市/北川・中村家等	花の水やり、ものを冷やすだけ。一部で今も使われている。水真水の水脈と鉄気のある水脈がある。
新池(さら池)/大津市南船路	主として農業用水にしよう。簡易水道の名残で、洗い物などの生活用水に使っている人もいる。
/甲賀市土山	集落近くの自動車道東側。山の落ち水を水槽に溜めている。
かばた/野洲市	主に洗い物
/日野町	道路脇。円形・方形の水溜。水源は近くの比都佐神社の山
かわと/高島市今津町	上水道ができるまでは飲料として利用。現在も家の中へ引き込んで使ったり、野菜の洗い場として利用している。

農業用水として使う

現在滋賀県の多くの農業用水は琵琶湖からの逆水によってまかなわれ、安定した営農を行えるようになっていますが、その維持費にも多くを要し、外来魚問題も引き起こしているようにも聞いています。右の図 12 のようにわずかの活用しかないようですが、農業用水としての役目を終えたとされる数多の溜め池の有効活用が図られないのでしょうか。

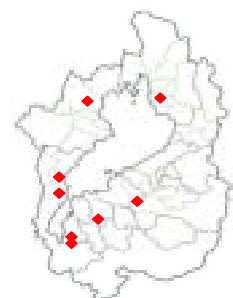


図 12 農業用水として使う

名称/所在地	調査者のコメントや説明
下長尾池/大津市	昭和16年からこの池へポンプで琵琶湖の水をくみ上げ、600町歩の田畑を潤していたが、配水管事故が多く、昭和30年代に廃止された。
新池(さら池)/大津市南船路	主として農業用水に使用。簡易水道の名残で、洗い物などの生活用水に使っている人もいる。
かわと/高島市今津町	野菜の洗い場、農家の種籾の浸し場として利用している。

神事(信仰)に使う

人々の生活に欠かせない水を司る神々を祀る祠などは、昔は多くの水場で見られましたが、いつの間にか打ちやられ、近頃は滅多に見ることができなくなりました。その結果が右の図 13 のようになるのでしょう。

水は心や体を清めてくれるといいます。神前にぬかずいたり、御加護を受けようとするとき、人は口や手を洗い、時には水垢離(みずごり)をします。「禊(みそぎ)」という言葉のある限り、水と神事は切り離せないでしょう。



図 13 神事(信仰)に使う

名称 / 所在地	調査者のコメントや説明
弁天池 / 草津市	島には弁財天が祀られており、以前は農業用水として旱魃時の雨乞いや豊年祈願の祭りがあったが、現在は大掛かりな祭りは行われていない模様。
下長尾池 / 大津市	昔、この池から二体の地蔵が掘り出され、口伝によれば、江戸時代の日照りが続く年、地蔵の下に村人が集まり雨乞い祈願をした。
布施溜 / 東近江市	島には弁財天が祀られている。
八幡神社の池 / 東近江市蒲生	島に對面して津島神社の小祠がある。
清龍の滝 / 米原市	蛇を祀ったり、不動明王を祀ったりした祠がある。

その他の使われ方

湧水の場合と同様に様々な形で用いられているようです。しかし小川は直線的な水路となり、暗渠部分も増え、井戸水や沢などは身近な存在ではなくなりつつあるため、その利用は限られたものになっているようです。回答に寄せられたコメントにもあるように過去形で述べられているのも一つの特徴でした。

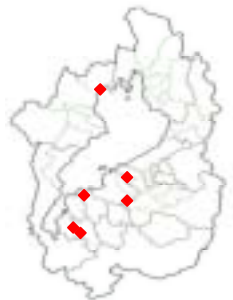


図 14 その他の使われ方

名称 / 所在地	調査者のコメントや説明
カワタ / 高島市マキノ	簡易水道が敷設される昭和 30 年代までは飲用、生活用水、農業用水。現在では三面張りの川の中央に溝を掘り、水流の用途は防火用水に変わったように思います。
/ 東近江市、御沢神社の近くの家々	以前は個人の家に湧水池を持っていたが、現在はほとんど存在していない。しかし、ホームポンプを設置して今でも飲料水としている。池に鯉を飼っていた。
/ 草津市、天井川沿い	お豆腐やさんが多かった。
/ 草津市	今も飲料水として使用されているかは不明。
かばた / 野洲市	川魚の放流



北川湧水 山崎千晶氏提供



針江かばた 村上靖昭

・ 天然水はいつごろから？

「湧水」や「井戸水や沢、小川の水」はいつごろから使われているのか(湧いているのか)についての回答は下の表のとおりです。これを見ても明らかなように、昔の人たちの手によって今日まで水場を大切に守り、受け継いできている様子が伺えます。ところが、何人もの方が水量が減ってきたとコメントで述べられているように、危惧すべき問題も大きいと思います。河川改修や開発工事の影響なのか、それとも自然現象なのか、それぞれの場所によって事情は異なると思いますが、清涼で豊かな水がいつまでも得られるように努めたいものです。

表 3 天然水の使われだした時期

	昔から	最近	不明	その他	減量*
湧 水	62	2	5	7	*9
井戸水や沢 小川の水	26	0	2	3	*1

* 減量数値は、コメントより集計したものです。

-1) 湧水の使われだした時期

昔から

名称 / 所在地	調査者のコメントや説明
野路の玉川/草津市	昔から歌にもうたわれ日本六玉川の一つ
明神池/東近江市	この池は明神さんといって近江八幡市馬淵地区が社を建て、農業用水の分水の基点となっており、由緒書きもある。
山室湿原/米原市	湿原は米原市指定天然記念物
泉神社湧水/米原市	日本名水100選
/草津市	湧泉なので残した。
長等山不動明王/大津市	最近は水量減少(源泉不明)
十王の水/彦根市	近年水量は減っている。
/高島市今津	湧水量が減少しており、以前は湧水箇所が目視できましたが、今は確認困難です。
岩間の水/大津市	昔からあったのでしょうか。醍醐寺から山越えで岩間寺へ。下山して石山寺へ歩く道筋にあったんだと思います。西国 33 箇所めぐりでハイキングコースです。
南井水/甲賀市土山	平成 13 年に土山町事業として「しょうず公園」として整備された。(石碑、垣根、水溜め、落差、ステンレスの道路、境界棒など)
新神戸電機構内/彦根市	昔の農業用水池
川瀬駅北東側/彦根市	昔の農業用水池
若宮湧水/近江八幡市	太古より大化時代から
十王の水/彦根市	元禄年間より世に知られている。
御澤神社「お沢さん」/東近江市	推古天皇の時代、聖徳太子が農事を奨励され、蘇我馬子を奉行に命じて開墾。その水源池として清水池、白水池、泥水池の 3 つを穿たれた。
高光竜神の湧水/甲良町	藤原高光に由来か。
寄倍の池/野洲市	水深きわめて深く旱天に涸れたことがない。
大夫の井戸/近江八幡市安土	室町時代？
/野洲市	小篠原遺跡の井戸
/高島市今津	道路の下石組みの間から湧いていて、すぐ横を流れる小川が濁っていても、この湧水は透明。湧水の流れのなかにはセリが生えている。

/高島市今津	昭和 56 年に今津中学の生徒がザゼンソウを発見するまでは、「しょうずわら」と呼ばれ、人が踏み込まない湿地の竹やぶだった。
亀の池/新旭	針江地区の湧水群に近接し、安曇川の伏流水。
「秋葉の水」「瓜破(割)の水」	コンクリートのふたがされたままであったが、平成 16 年に集落で助成を受けて、元の姿に名水を復活整備した。
/米原市	30～35 年前はよく使われていましたが、最近は、上下水道も洗濯機も各家庭にあるので、ほとんど利用しないようです。あまり見かけなくなりました。
若宮湧水/近江八幡市	以前は水が盛り上がり噴出していたが、琵琶湖総合開発の工事が行われてから水位が下がった。今は、一段下の鈴鹿伏流水をポンプアップしている。
梅の川/近江八幡市安土	琵琶湖総合開発工事以来水が出なくなったこと。織田信長の家臣武井夕庵がこの水で御茶を入れ信長に献じたところ非常に喜んだとのこと。
/大津市	個人の方が奉仕で湧水を護っているとのこと。石地藏や「白い水神？」が祀っており、小さい祠に個人の方の名前が記載。(尼崎市の方)
「長命水」「厄除水」/大津市	岩間寺は泰澄大師が 722 年に建立。その弟子になった雷神が当時水の乏しかった岩間山に自らの爪で井戸を彫って霊水を得た。
梅の川/近江八幡市安土	信長の茶の湯水として使用されていた。旧くは銘水であったことがうかがえるが、今はガボガボと音だけがこのくぼみを満たしている。
間田湧水群/米原市伊吹	伊吹山麓のこの辺りには湧水が多く、古代から水の利用があったと思う。間田の長曾小白谷として知られている。
小碓の泉(臼谷)/米原市伊吹	この泉の西にある間田湧水と共に古代から人々に利用されていたことが標されている。
コンコン清水/米原市伊吹	奥の藪の下にわずかに水溜りが残っているだけ。昔はその名のごとくコンコンと湧き出していたと思われる。雨の後で行ったら洗い場いっぱいの水があった。水量は天候に左右されるのかも。
奥泉口銘水/米原市伊吹	古代の出土品もあり、噴出する湧水を巧みな石組で台地に導き、農業用水として稲作が行われてきたが、今は耕作放棄され、水路も荒れるがままになっている。
海老江湧水(仮称)長浜市湖北	いつごろからは不明。今も絶えることなく溢れている。
日の口桶(小浜桶)/守山市	いつ頃か判らないが、石組の樋門などから明治以前からのものでは？

最近湧き出た

名称/所在地	調査者のコメントや説明
三尺の泉/高島市安曇川	40 年くらい前に行われた井戸の回収以来、湧き出しているという。

わからない…コメントや説明なし

その他

名称/所在地	調査者のコメントや説明
後藤館跡/東近江市	16 世紀中期より後藤家(県指定文化財)があった。白鳥川沿岸土地改良事業の際に埋め立てられたが、湧水の量は大きかった。
/高島市マキノ	昭和 40 年頃から
/大津市	昭和 40 年代より
丈の口 出湧/守山市	野洲川の改修とともに消滅。記念碑が立っているだけ。それも手入れされなく、草が繁り竹も迫ってきている。
中の前出湯/守山市	昔は野洲川の伏流水として湧出していたが、改修とともに涸れたので、今はポンプアップして公園に流している。
金ヶ橋池/守山市	昔は自然湧出していたが涸れたのでポンプアップして流している。

-2) 井戸水や沢、小川の水の使われだした時期

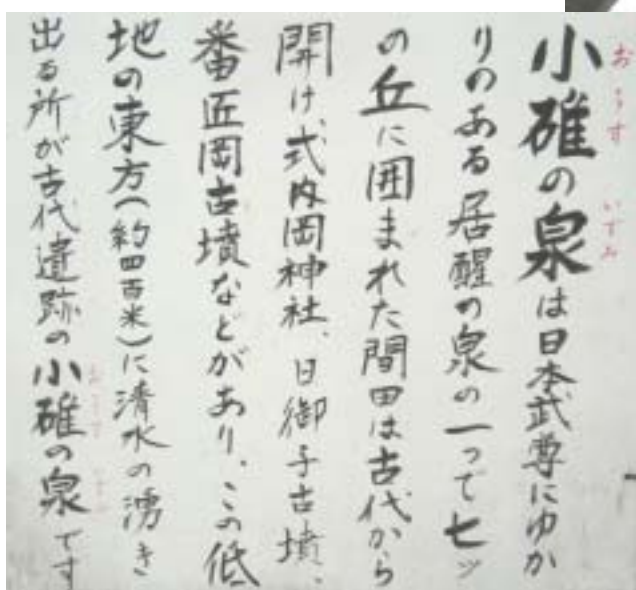
昔から

名称 / 所在地	調査者のコメントや説明
北方桜場揚水場 / 東近江市	地下水が浅く水田の用水を井戸から羽つるべくみ上げてきた。
御沢神社の近くの家々 / 東近江市	最近では池・川が深くなったので、あまり利用されていない。
居醒の清水 / 米原市	日本武尊が伊吹山の賊を征伐されたとき高熱を醒されたといわれる水です。
/ 大津市	真野川上流より取水して集落内に流している
新池(さら池) / 大津市南船路	昭和9年のため池改修で簡易水道が設置され、以来昭和50年代まで水道として使っていた。(上水道は昭和30年代にひかれ始めるが…)
/ 甲賀市土山	ずっと以前、町報で紹介されたことがある。
かばた / 野洲市	最近ではほとんど使用されていないと思う。残っているのも少ない。
布施溜 / 東近江市八日市	梁塵秘抄に記載「蒲生野布施の溜」
かわと / 高島市今津	湧水池は、埋められたものもあるが、現在でも集落に十数か所残っている。

最近使われだした、 わからない…コメントや説明なし

その他

名称 / 所在地	調査者のコメントや説明
カワタ / 高島市マキノ	昔は使われていたが、簡易水道や河川改修でそれまで生活用水として使用していたができなくなる。
/ 草津市、北川・中村家等	40年ほど前までは、各家に井戸があった。
/ 草津市天井川沿い	40年ほど前までは、各家に井戸があった。



小碓の泉 津田國史氏提供



梅の川 西崎嘉代子氏提供

． 天然水にまつわる水の神さま(水神)

人の生活に欠かせない水、そして、稲作を生活の糧とする社会にとって水は必須のものであり、大切にしてきました。ところが水は、時には旱魃(かんばつ)、時には大水害をもたらす人知を超える存在でもあります。そこで人々は、そのように気まぐれな水を何とか安定したものになることを願い、水を司る「水神」を「崇め」「祀った」のでしょう。

一般的に水神とは、ヒンドゥー教に由来する「弁財天」とその眷属(けんぞく)である蛇や龍、河童が祀られることが多いですが、兄弟神ともいえる「山の神」や「田の神」そして「不動尊」もありますし、「記紀」などの古文書には様々な神々が水を司るとされています。ところが、直接水神とは関係のないような「地蔵尊」が湧水地に祀られているのも多く見られます。これも水に苦しむ衆生(しゅじょう)の民を救済する意味で祀られているのではないのでしょうか。また、何も祀られてなくて「注連縄(しめなわ)」だけで水の周りに結界が結ばれているのも水神があると考えてもいいのではないのでしょうか。ご専門の方の判断を頂戴したいと思います。

この「水神」や次の「水神まつり」の設問に対し、解答をいただけなかった方が多数おられました。その方々は多分「わからない」ために回答いただけなかったものと思います。選択肢に「わからない」を加えるべきであったと反省しております。

水神を用途別に見れば、図 15 に見られるように、神事に使われる水に多くの水神が祀られているのは当然であるとして、農業用水として使われる水にも多く祀られているのは、それだけ農耕には欠かせない水に大きな関心をもたれていた証でしょう。

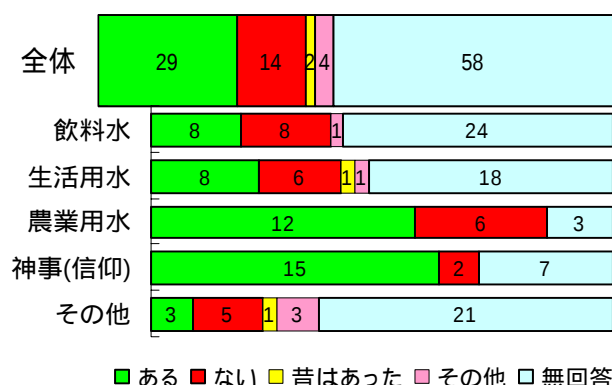


図 15 天然水の使われ方による水神

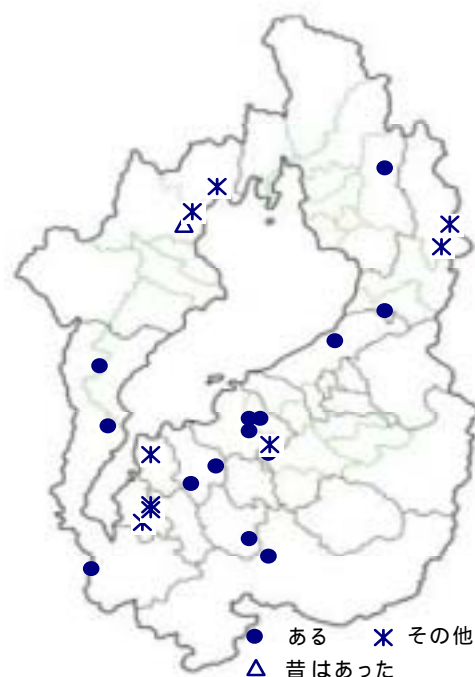


図 16 天然水と水神

名称 / 所在地	調査者のコメントや説明
弁天池 / 草津市	浄財弁財天が祀られている。
下長尾池 / 大津市	雨乞地蔵が祀られている。
天命水 / 草津市	行満波切 不動尊が祀られている。
/高島市今津	山の神、田の神はあり。
北方桜場揚水場 / 東近江市	八大龍王 (龍王祭) 7月10日
明神池 / 東近江市	水神さん 明神様
/大津市真野大野	河内神社内

南井水/甲賀市	しょうず公園の少し西にエノキの大木と祠がある。
かばた/野洲市	水のカミサンという言葉はあった。
布施溜/東近江市八日市	弁財天
八幡神社の池/東近江市蒲生	津島神社
若宮湧水/近江八幡市	若宮神社
十王の水/彦根市	地藏堂が水源池の中央に建立され、その祭神はおそらく水神或いは龍神として祀られ、いつの世にか地藏尊として祀られるようになった。
御澤神社「お沢さん」/東近江市八日市	市杵嶋媛命、弁財天女、聖徳太子、八大竜王、遣龍仁、芦摩都地、芦摩千地
清龍の滝/米原市	蛇を祀ったり、不動明王を祀ったりした祠がある。
不動の泉「金命水」/甲良町	三雲大日大聖不動明王とある。
金亀水/湖南市甲西	八大竜王とある
寄倍の池/野洲市	往古、神輿二基を沈めたが今もって池底に沈んでいる。とある。
「知恵の泉」「知恵の水」/高島市マキノ	天神社の裏山にあるこの水の湧水池は「水神さん」と呼ばれている。
「秋葉の水」「瓜破(割)の水」/高島市安曇川	天神社の裏山にあるこの水の湧水池は「水神さん」と呼ばれている。
浅小井湧水の里/近江八幡市	金比羅さん。天命 220 年より。
喜多川湧水/近江八幡市安土	円満地藏尊

． 水神まつり

季節や農事の節目に安寧や御加護を願い、地域の行事として水神をまつるのが「水神まつり」でしょう。そのまつり方には様々あるようですが、神事としてまつると同時に、地域共同体のまとまりとその水域の保全を併せ持った形で行われているように見受けられます。

水神が祀られている数に比べ、「水神まつり」の数が少ないのは、特に飲料水において水神が単独で祀られていたり、村人すべての人に関わりを持っていないがゆえではないかと推測されます。それに比べ、多くの人に関わる農業用水として用いられている所では「水神まつり」が多く見られるようです。

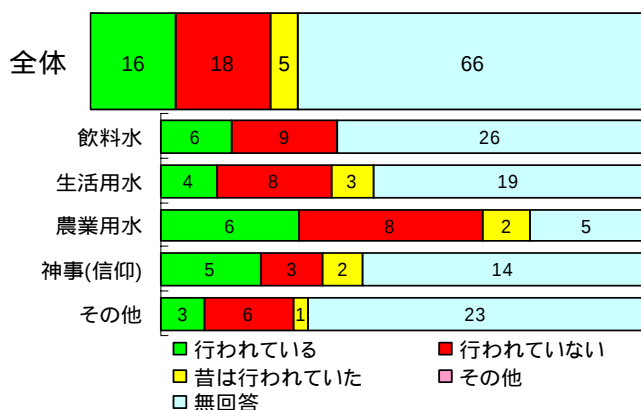


図 17 天然水の使われ方と水神まつり

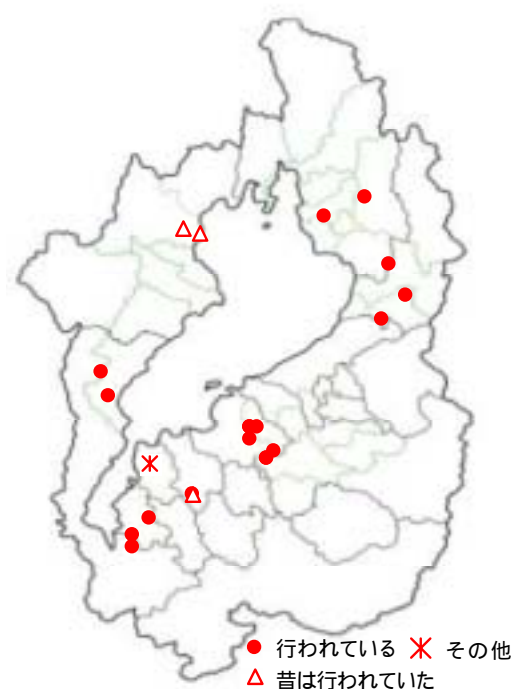


図 18 天然水と水神まつり

名称/所在地	調査者のコメントや祭りのいわれ
天命水/大津市木戸	比良八講に献じる法水として取水し、比良三尊に供え、法華論議法要が執り行われる。また船上より法水を湖上に流し、湖水清浄を祈願する。
潮斎の井/草津市	水天宮夏祭 5 月 3 日。小汐井池の場所に 1706 年に創建
真明寺跡/高島市今津	昭和 30～40 年代までか？今はない。
北方桜場揚水場/東近江市	雪野山古墳に貴船神社があり龍王山とも称していたが、明治末に羽田神社に合祀し祭典を行っている。
居醒の清水/米原市	8 月 23 日地蔵祭りが盛大に行われています。
/長浜市湖北、南速水	高時川からの水のひき始めに“井祭”を行う。4 月 15 日～16 日に、近くの 4 集落(速水・小倉・大安寺・南速水)が各集落の神社で一斉に行う。御酒をお供えして、農業用水が得られるように祈願する。この両日は“のどめ”で、農作業は休む。今でもこの習慣は守られている。
新池(さら池)/大津市南船路	お正月に村の人が集まり、注連飾りをして、お餅とみかんをお供えする。
波久奴神社/長浜市浅井・高畑	湯の花祭り
南井水/甲賀市土山	行われていないと思う。夕方で、人影がなく、問いかけしていない。
若宮湧水/近江八幡市	3 年に 1 度の川幅改め行事と浚渫作業の後各村代表が若宮神社に参拝。
若宮湧水/近江八幡市	近くに若宮神社があるが、水神祭りかどうかわからない。
清龍の滝/米原市	蛇を祀ったり、不動明王を祀ったりした祠があり、7 月 24 日に地元番場の人たちによって滝祭りが行われる。
浅小井湧水の里/近江八幡市	7 月第 1 日曜日 20 軒くらいの「講」で守っている。
喜多川湧水/近江八幡市安土	年 1 回 8 月 24 日
中の前 出湯/守山市	隣接する己爾乃神社では、毎年 9 月 15 日に「なまきおどり」という「盆踊り」が行われている。昔は、風水害によって稲が枯れることが多く、その保険として畦際にまとめて苗を植えておいたものを、この時期になれば使うことも無いので、その苗を播いたといわれる。

・調査を終えて

以前、琵琶湖博物館では嘉田由紀子氏を中心に水と人とのかかわりについて大変詳しく調査された結果報告書があります。しかし、それと今回とは規模や期間そして調査内容や方法などについて比べるすべはありませんが、今回の調査にあっても、水を大切にしようとする滋賀県の人々の真髓が表れているように思います。

前回と同様、今回の集計結果や皆様のコメントから共通して言えることは、その水の恵みを享受し守っていこうとする人々がたくさんおられること、そして人知を超えた水の姿に畏敬の念を持って崇めようとしていることです。しかし中には、時代の流れからでしょうか、上水道の利用や農業用水の琵琶湖からの逆水のように、より利便性の高いものへと移り変わってきているようでもあり、水の神さまも、ただそこに御座(おわ)すだけ、という現実の姿も見受けられるようです。

これから先も、水は私たちの生活には絶対欠かすことはできません。如何に上水道などが発達しても、そのもとの水は天からの恵みであったり、地から湧き出したりした天然の水です。いつまでも清涼なままで私たちのそばにあるよう、守り続けていきましょう。

自分のお住まいではない地域の方々からも直接お話を伺い回答してくださった方が何人もおられました。きっとご自身が水を大切に思い、守り続けて行こうとされているのでしょう。ありがとうございました。



滋賀県立琵琶湖博物館フィールドレポーター

2011 年度 第 1 回調査

「滋賀の天然水と水の神さま」調査案内

滋賀県は伊吹、鈴鹿、比叡、比良などの 1000m を超える山々に囲まれ、総面積は日本国土の約 1 % に当たる約 4 0 0 0 平方キロメートルを占める盆地であります。

そして、県総面積の約 5 0 % は森林に覆われ、さらに県中央部には県面積の 1 / 6 を占め、約 275 億トンもの真水を蓄える琵琶湖を抱えており、天然の水の豊かな環境を作り出しています。

この豊富な水は、まわりの山々あるいは森林に降り注いだ雨が 450 を超える、大小さまざまな河川によって、琵琶湖に流れ込むことによって育まれているほか、その一部が伏流水となって県内の各所から「湧水」となり、良質な天然水を提供してくれております。

これら豊富な天然水は「かばた(かわど)」の利用などといった形で、昔から琵琶湖周辺の人々の生活様式に深いかわりを持ってきました。また自然環境的には、ニゴロブナ、ゲンジボタルやバイカモなどといった豊かな自然を提供してくれています。

そこで、2011 年度第 1 回フィールドレポーター調査では、県内の湧水などの天然水と、それらにまつわる「神さま」や「まつり」について調べてみたいと思います。

あなたの身近なところに、湧水があったり、自然水を利用する習慣などはありませんか？ 昔はあったが今は無くなったとか、昔はなかったが最近使われ出した、などの情報をお寄せください。

また、これらの湧水あるいは天然水利用にまつわる水の神さまの祭り『水神祭』などは今でも行われているでしょうか？

身近なところに無くとも、県内でそのようなところ、あるいはそのような行事をご存知でしたら、ぜひお知らせください。

調 査 期 間 ： 平成 23 年 7 月 ~ 9 月末

担 当 ： 村上、森(フィールドレポータースタッフ)

アドバイザー ： 楊 平(琵琶湖博物館 学芸員)

2011 年度第 1 回調査
「滋賀の天然水と水の神さま」調査票

調査者氏名_____

. 「湧水」の出ている場所をご存知ですか？

メッシュコード(わかれば)

1). 場所: _____市_____町_____

--	--	--	--	--	--	--	--

その場所を目印になる駅・橋・建物等で示し、できるだけ詳しく教えてください。
地図などを裏面に記入してください。

名称などがあれば: _____

2). どんな使われ方をしていますか？(該当項目を○で囲んで下さい: 複数回答可)

飲料水 生活用水 農業用水 神事(信仰) その他

コメント:3). 昔からありましたか？(該当項目を○で囲んで下さい)

昔から 最近湧き出た わからない その他

コメント:

. 井戸水や沢、小川の水が使われている場所(かばた等)をご存知ですか？

メッシュコード(わかれば)

1). 場所: _____市_____町_____

--	--	--	--	--	--	--	--

名称などがあれば: _____

2). どんな使われ方をしていますか？(複数回答可)

飲料水 生活用水 農業用水 神事(信仰) その他

コメント:

3). 昔から使われていましたか？

昔から 最近使われだした わからない その他

コメント:

. 、 にまつわる水の神さま(水神)をご存知ですか？

ある ない 昔はあった その他

コメント:

. 「水神まつり」などは行われていますか？

行われている 行われていない 昔は行われていた その他

コメント:

「水神まつり」が行われていれば、その様子、いわれ等を教えてください(裏面に)。

記録写真等がありましたら、ご提供下さい。提供頂いた写真等はホームページなどに掲載させて頂く場合があります。 また、使用後は必要なら返却させて頂きます。返却の要否をご記入下さい。